



case.2 | のぞみ福祉作業所(宮城県南三陸)



人のつながりから
生まれるかたち

全国からの支援と地域のつながりを大切にしたブランディングによって、新しい価値を生み出している施設があります。それが、宮城県南三陸町にあるのぞみ福祉作業所です。

エイブルアート・カンパニーとデザイナーとの協働により新たな挑戦をつづけるのぞみ福祉支援と、施設・地域の人びとの深い信頼関係によって生まれたNOZOMI PAPERは、わたしたちに多くの示唆を与えてくれます。

はじまりは手書きハガキ

南三陸町は、東日本大震災による大津波で、壊滅的な被害を受けた地域。震災前にのみ福祉作業所があつた、海を見下ろす美しい高台にも津波が押し寄せ、施設は全壊しました。そんな状況下、のぞみ福祉作業所をいち早く再建しなければとスタッフや支援者が奮闘。高台にプレハブの作業所を再建し、2011年9月から作業を再開しました。しかし地域の店も流れました。かまぼこのラベル付けなどの下請け作業はもちろんありません。そこで自分たちの手による新たな仕事をつくりのひとつとしてスタートしたのが再生紙を使用した手書きハガキの生産でした。エイブルアート・カンパニーのスタッフとデザイ

ナーがのぞみ福祉作業所を訪れた時、メンバーの高い意識と技術に心を惹かれたと言います。その強みをいかそうと誕生したのが、ペーパーアイテムブランドNOZOMI PAPER Lab.なのです。

「ありがとう」を手作業に込めて

NOZOMI PAPERは、全国からの支援によって生まれたつながりのシンボル。紙書きの機械と技術指導は各地の支援者から提供されたもので、材料となる紙パックは地元の人びとから届けられています。加えて、変形紙をつくるための型を開発した技術者、活版印刷を担当した印刷会社の力があつてこそ、このブランドは成立了。

